

特定非営利活動法人
市岡国際教育協会 市岡日本語教室

- 場所 港区民センター
- 日時 毎週金曜日午後7時から8時半
- ボランティア、学習者、募集中
- 見学随時、予約不要

e-mail: Ichioka_nihongo@hotmail.com

会報 Ichioka

2010/4 第49号

発行人/市岡国際教育協会理事長 吉田徳夫 /編集/広報係
大阪市港区市岡元町 2-12-12 TEL: 080-3846-2581

現在、29カ国の学習者と交流しています。

市岡日本語教室は、NPO 市岡国際教育協会と港区コミュニティ協会が共催し、NPO 市岡国際教育協会が運営しています。

日本語教室は港区民センターで毎週金曜日の夜に開催しています。

URL: <http://ichioka-nihongo.org/>

市岡日本語教室は、港区民センターに、ひっこします。

ことしの4月から、いちおかにほんごきょうしつはみなとくみんセンターでおこないます。がくしゅうは4月9日(きんようび)から、みなとくみんセンターではじめます。それからあとは、ずっと、まいしゅう きんようびのよる7じから8じ30ふんまで、いつもどおりのほんごきょうしつを、くみんセンターでひらきます。ひょうはむりょうです。



市岡日本語教室の会場が港区民センターに移りました。市岡日本語教室は、1996年5月の開校以来、2010年の2月まで、市岡高校を会場にお借りして、日本語教室を実施してきました。当初は学校の会議室等をお借りしていましたが、同窓会館の誕生とともに、2004年度からは、同窓会館を主な会場として使用してきました。

ところが、同窓会館の管理運営を担当してられる市岡高校同窓会会長の佐藤充利さんが高齢と健康上の理由で会長職を降りられるため、会館の管理運営が難しくなりました。学校側と交渉した結果、学校の方からは年間14回程度学校内の教室等の使用を認めていただきましたが、継続的に日本語教室を開催するためには充分な回数を確保できないため、別の会場も含めて検討してきました。

その間、いくつかの団体から、会場提供のありがたい申し出がありました。尽力してくださいました会員の皆さま、関係者の皆さま、本当にありがとうございました。市岡日本語教室の地元での知名度と会員みなさんの地元での評判、力量に本当に感心しました。最終的に、そのいくつかの候補の中から、港区民センターへの移転を決定しました。

その理由は、①公的機関が運営している公共の建物であること。②駅から近く交通の便がいいこと。③港区コミュニティ協会と共催することにより、年間を通じて安定して会場が確保されること。④コミュニティ協会との共催による

り、会場使用料が免除されること。等でした。

2010年4月からの日本語教室は、港区コミュニティ協会との共催になります。コミュニティ協会は会場を提供し、NPO市岡国際教育協会が運営を担当します。会場費はコミュニティ協会が負担し、運営に関わる費用は市岡国際教育協会が負担します。日本語教室の前身は、会場が変わるだけで、ほとんど今までと同じ内容で実施できると考えています。年間の行事予定も例年通りです。学習者や会員みなさんには特に新たに大きな負担や心配をかけることはありませんので、安心してください。ただ、場所が変わっただけと思ってくださいれば、結構です。

港区民センターと同じ建物の3階には、大阪市立港図書館があります。金曜日は午後7時までの開館です。日本語教室が始まる少し前に来ていただければ、教材に使用する図書を借り出すこともできます。上手に利用してください。また、会場の区民センターは午後9時30分の閉館です。今までの、時間的に少し余裕ができましたので、教室終了後の班会議や各パートのミーティングも開きやすくなりました。学習記録等のファイル類も少しは保管させてもらえることになりました。

従来、区民センターでの学習には学習記録等のファイルがありませんでしたが、4月以降は、それらも利用可能です。

細かい部分については、今後コミュニティ協会と話し合いながら進めていきます。会員みなさんには、今後も今までどおりのご協力をお願いいたします。

なお、特定非営利活動法人(NPO)市岡国際教育協会の所在地は市岡高校から動きません。また、大きな荷物は市岡高校の田龍会(定時制同窓会)の部屋に継続して預かっていただきます。

(広報渉外担当理事・札葉正隆)

ひと足先に 春いちばん! 市岡日本語教室 オープンクラス



台湾出身の王さんは日本の女性は結婚してもお洒落!とまずはお褒めの言葉を頂戴する。そして冬でも冷たい飲み物を飲むなんて不思議!だそうです。(そう言えば私の学習パートナーで中国出身の王さんも冷めた食べ物を食べる習慣がなく、お子さんのお弁当作りに苦労したと昨年のスピーチ大会で発表していた。)

スリランカ出身のマキシさんは15年前の神戸大震災でボランティアで来日して以来、大阪に住み着いた方。FM COCCOLOで毎週DJとして活躍する、市岡の有名な。流暢な日本語はお手の物で、当初「忍者」や「舞妓さん」はどこにいるの?と探したよと会場を沸かせた。

今年の冬は、ほんとうに寒い日が続いた。冷たい雨、吹きすさぶ寒風の中を、金曜日の夜は、学習者の皆さんやボランティアたちは「市岡」へと向かう。寒いけれど何故かいそいそと、わくわくしながら...

2月12日もとても寒かった。当日はオープンクラスで各班から学習者1名づつの日本語スピーチと、その後はイベント係の企画による伝言ゲームを愉しむという90分。

さて「ここがヘンだよ、日本人」のテーマで、スピーチのトップバッターは来日15年になる5班のメットさん。出身国シエラレオネを国旗と地図を示しながら紹介。緑、白、青の国旗の3色は「自然」「空」「海」を表し、アフリカ南西部の大西洋に面した国で、1961年に英国から独立した人口570万人の国。英語とフランス語が公用語でサッカーが盛んというメットさんの達者な日本語に聴き入り、まだ見ぬ遠い国に思いを馳せる。彼が日本に来て理解に苦しむ日本語。交通信号の「緑」を「青」というのは「ヘン」だそう。うーん、ホント変だね。(アカ、アオ、キイで語呂がいいからかな?でもやはり「ヘン」だよ。ね。)面白い日本語は「ネコジター」(笑)。好きな諺は「笑う門には福来る」(微笑)と締めくくって拍手を浴びる。

進行役は大城さん。いつもの教室ではテーブルを回って笑顔で伝達事項などを説明しながら声をかけ、潤滑油の役を果たしてくれている彼女のおかげで楽しいスピーチ大会になった。参加者全員に賞品が贈呈された。

続いて行われた「伝言ゲーム」は学習者、ボランティア混合で牛、ぞう、犬、猫、うさぎ、熊の6チームに分かれ、胸に可愛いシールを貼り付けて、縦10名に並び6列を作るのだが、人数の調整、整列が大変!

リーダーのボランティアが先ず先頭のひとの耳に「.....」。最後尾の人に伝わった時点で、「ハイッ!」と手を挙げる。早さと正確さを競うお馴染みのゲーム。「一番うしろのひとは前に出てリーダーに伝えてください」と元気な声を張りあげるのは、いつも軽妙な進行を務めてくれる神原さん。

3回行われ「井の中の蛙、大海に出る」「豚に黒真珠」「猫に大判、小判」本来の諺が少しヒネッテあるのがミソ(このミソの意味も奥が深い)。総合得点のトップは「ウサギさんチーム」に決定。優勝した皆さんには素敵なプレゼントが用意されていた。

市岡高校同窓会館を使っている今年度最後の教室になったが笑い声に包まれ、笑顔がいっぱいで、ひと足先に春がやって来たような金曜の夜だった。

(4班 皇 暢子)